

平成27年 9月17日(木) 発行



高大附高だより

編集 高崎商科大学附属高等学校父母の会
〒370-0803 高崎市大橋町237-1 TEL (027) 322-2827

新校舎・新施設紹介



平成27年度 全国高等学校総合体育大会

2015 君が創る 近畿総体

風に吹かれ青春が走り出す

大会期間: 7/28(火)~8/20(木)



第76号
2015・9

挨拶



父母の会会長
中村 純也

平成二十七年、父母の会会長に就任いたしました中村と申します。どうぞ宜しくお願い致します。五月に開催されました父母の会並びに部活動後援会の総会では、皆様のご協力のもと議事も予定通りに進行できました事、心より御礼申し上げます。新役員一同、父母の会会員の皆様のお力添えを頂きながら、生徒達が充実した高校生活を送れますよう頑張つて活動して行きます。六月下旬から七月にかけて行われました学年・学級懇談会では、活発な意見交換がなされ、とても実りある内容で無事に懇談会を終了することができました。また、どの学年も九割以上の会員の皆様にご出席いただき、教育に対するとても熱心な気持ちを感じました。本校も教育にはとても熱心で、保護者全員と出来る限

り懇談する事を目標としています。その為、ご都合が悪く欠席された場合でも、その後も出来る限り学校に来て頂く様にご案内をいたします。しかしながら、皆様も出来る限り都合をつけていただき、初回での全員出席をおすすめ致します。と言いますのも、やはり初回と二回目以降とでは情報量の点で大きな差があります。特に二年生、三年生は進路等が関係してきますので、受験生の夏休み中の過ごし方や心構え、家庭環境等、知っておいた方が良い情報もたくさん聞くことができます。また、普段ご家庭で名前が出るご友人の保護者にも会うことができますし、何より年に一度位は、お子様が勉強している学校や教室に足を運んで頂き、教育環境を見て感じてくださいます。高校の三年間はとても多感な時期ですが、私も保護者の一人として、しっかりとした家庭教育が出来るよう頑張つて行きたいと思

います。結びに、商大附高並びに会員の皆様の益々のご活躍とご多幸をご祈念申し上げます。

挨拶



理事長・校長
森本 純生

父母の会の皆様には、日頃より本校の教育に対しましてご理解とご協力をいただき誠に有り難う御座います。お陰様で学校で計画しております全ての事業が滞ること無く順調に進行いたしております。

四月に一年生を迎えてスタートした平成二十七年度も早いもので六ヶ月目に入っております。夏休みも終わり二学期に入りました。

今、日本の教育は大きな転換の時期を迎えております。この時期に本校も今年が創立一一〇年目という節目の年にあたり、施設設備の大改築改修事業を一昨年より継続して行つて参りました。一昨年は図書館・自習室を含む第七校舎の新築でありました。自習室も図書館も生徒が喜んで利用してくれております。守衛室も充分に機能

して校内の安全を守っております。昨年は正面の本館の建て替えでありました。職員室・大会議室・事務室・進路資料室・生徒会室・面談室・カウンセラー室等が新しくなりました。スタジオ・映像配信システムも既にフル活用しておりますし、併せて新設開店しました校内コンビニも大盛況であります。

本年は第二・第四校舎の耐震工事で、この工事には第三校舎の解体が伴いました。この工事の旧校舎解体や大きな躯体に手を加えるものは、授業や行事に支障の無いように夏休みを中心に行いほぼ完了致しました。現在、同時に着工している、冷暖房空調更新工事、トイレの改修工事、排水・照明関係工事、自転車置き場の新設・移設工事、講堂への渡り廊下の新設、校訓の額の新調、校舎内等身大鏡の設置、等が引き続き行われております。全てが完了するまで、まだ二ヶ月余り掛かりますが、もう少しで長期に亘つた工事も終わります。校内に落ち着きが戻ります。校訓の額の「親愛・礼節・整美」は現代にも必要な教えであり、創立一一〇年経過後も実践目標として参りました。

いと、新しくして全教室に掲げました。又、大きな鏡を今までのものに加えて新しく十三カ所に設置しました。本校では制服をきれいに着ること、頭髮を含め整った身だしなみをすることを指導しています。自分の姿勢・服装を鏡に映して整えることを習慣として欲しいと願い設置しました。

二期期の始業式はスタジオからのテレビ中継にて行いました。夏休み中の多くの生徒の頑張った結果を全校生徒に報告致しました。大会等の成績は別表の通りであります。今年も昨年・一昨年に続いてインターハイ決勝に二名が進みました。残念ながら僅差で優勝を逃しましたが立派な戦いで応援をしていて感動致しました。

本年もいよいよ後半に入ります。父母の会の皆様には前半にも況してご後援をお願い申し上げます。

学年委員長挨拶

三学年委員長 山木 恵子

本年度三学年の委員長という、大切な役割を与えていただきまし

た。子ども達の入学と同時に、父母の会に加入させていただき、一年生の時から役員の皆様と一緒に活動させてもらって、いろいろな事を体験しました。他の私立高校の皆様との交流や各種講演会など、本部役員でなければできない事もとても貴重な経験です。三年生になり子ども達の高校生活も最後です。そして私達保護者の「父母の会」活動も幕を降ろすこととなります。その事を常に頭の片隅に置きながら、最後の一年も楽しんで父母の会活動に協力したいと考えています。また子ども達にとっては、進路の決まる大切な年です。私達保護者も全力でサポートできるように学校の先生方と協力して見守っていきましょう。言葉整いませんが、学年委員長のあいさつといたします。本年度も、どうぞよろしくお願い致します。

二学年委員長 松澤 龍治

昨年に引き続き学年委員長を務めさせて頂く事になりました松澤と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

学年委員長という大役を引き受

け早いもので一年が過ぎました。何もかもが始めての事ばかりで、色々な経験をさせて頂きました。二十七年度がスタートしています。が、一年間、経験してきた事を活かしながら、今年度も頑張りたいと思います。

七月に行われた学年・学級懇談会へご出席頂き、ありがとうございます。学年統一テーマの「進路について考える」という内容で沢山の意見交換が出来たのではないのでしょうか。各会場に分かれての進路説明会も行われ、保護者の方々も子どもの今後の進路についてとても参考になったのではないのでしょうか。これから進路を決めていく上で大切な時期に入っています。お家で子どもさんと進路についてお話されたかと思いますが将来の進路に向け、親子のコミュニケーションを大事にこれからもサポートしていきたいと思えます。

生徒の皆さん、高校生活、後悔のないよう楽しく過ごして下さい。

一学年委員長 桂川 淳

今年度一学年委員長を務めさせ

て頂きます桂川です。私自身は右も左もわからない状況ですが、先生方や保護者の皆様方のご協力のもと、重責を果たすべく努力してまいる所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

高校の三年間は、子ども達にとって最も心身共に大きく成長し、また大きく変化する時期です。卒業後には進学又は就職と、人生の中で一つの岐路を迎える大事な時期でもあります。子ども達がそれぞれの目標に向かってしっかりと進んで行けるように、学校と家庭が連携しながら応援していきましょう。

生徒の皆さんの中で、将来の目標をしっかりと持っている人はまだ少ないと思います。この高校生活の中で目標を見つける努力をしましょう。そのために、三年間勉強に部活に励んでください。その中で仲間と協力する、相手を思いやる、という気持ちも是非持つてもらいたいと思います。これからの長い人生の中で、高校の時の友達が助けてくれたり、助けたりする時がいつか来ます。仲間との絆を大切にしましょう。

出席者感想

普通科特選三年 磯部 裕子

進路講演会の講師宇佐美先生の話は、現代社会を見据えた進路選択の為に親が成すべきことが示され、「家庭で進路や職業の話題を心がける」「人は言葉ではなく相手の言い方や態度に反応する」等、貴重な助言を頂いた。就職を考えた進路選択、社会人基礎力の必要性、進学費用など、大変参考になった。学級懇談会では進学資料を基に学校側の誠意ある説明があり、親同士では共通の心配事に会話が弾んだ。雇用問題・戦争法案等、社会の変化には不安を抱く。先頃、息子宛に自衛隊から勧誘葉書が届き、若者にそっと忍び寄るものを感じ恐ろしくなった。選挙権十八歳で社会科学授業も新たになるが、正しい歴史認識と判断力を身につけてほしい。恒久平和は外交と慈しみの精神が育む事を伝える責任を感じる。先の戦争で傲りの政策に踊らされ、愛する息子を戦場に送り出した不幸な親にならないようにと親同士で語り合えたことが

嬉しかった。

普通科進学三年 猿谷 正広

進路について、高校任せ、子ども任せにしない。「あなたの好きな事をやりなさい」と、講演を聞く前に、何度言ってしまった事であろう。こう思いながら、ライセンスアカデミーの宇佐美氏の講演を聞いた父母は何人いるのだろうか。三年生にもなると、普段よりも、少しピリピリしているわが子を見ると、ふと声かけてしまいうフレーズであるが、これがもつと悩ませていた事だと、反省させられた。学級懇談会でも、担任の先生の配慮で、各進路別のグループに分けて頂き、意見交換ができて、有意義な時間を過ごすことが出来た。普段の何気ないコミュニケーションを大切に、三月の卒業式にクラス全員が笑って卒業できるようサポートすることが親の努めであると感じさせられた。

普通科国際文化コース三年 戸塚 育美

六月二十一日第三学年の学年学級懇談会が「進路達成に向けて」

というテーマで行われました。

講師の先生には「高校生の進路と家庭の支援」という内容で家庭でのコミュニケーションの取り方や進路に向けて意識の高め方などのご講演を頂きました。たくさん面接の現場に携わってきた先生ならではのお話に引き込まれていました。

学級懇談会ではまずシンガポールの修学旅行での様子のDVDを見せて頂きました。クラスメイトと楽しく過ごす笑顔の子ども達の姿に感涙いたしました。また井出先生にはクラスの現況と進路達成に向けての今後の日程、生活指導、入試形態などのお話を頂きました。クラス替えのない我が国文を二年間担任して下さった井出先生なので安心して何でも相談する事ができてとても良かったです。

いよいよ進路選択も押し迫る中このような機会を設けて下さった先生方の熱心なご指導に感謝し、引き続き子ども達と向き合い、素敵な未来に導いていきたいと思えます。残り少ない高校生活、親子で楽しく過ごせたらと思います。そして全員で笑顔で卒業式を迎えましょう。

総合ビジネス科三年 佐藤 厚子

第三学年の学年・学級懇談会が六月二十一日に行われました。

第一部全体会では、ライセンスアカデミーの宇佐美先生による進路講演会でした。最終学年となり、これからの進路への考えや取り組み、学校との連携、家庭でのコミュニケーションの取り方など、具体的なお話を聞かせて頂き、改めて考える貴重な時間となりました。

第二部懇談会では、先生よりクラスの様子や進路状況、日程などの説明を詳しくして頂きました。その後、各班に分かれて親同士の意見交換や情報交換が出来、有意義な時間が過ごせました。

これからの残りの高校生活が悔いなく充実した毎日が過ごせますよう、保護者として努力し、進路達成に向けて前進していきたいと思っております。そして笑顔で卒業の日を迎えられることを願っています。

普通科特選二年 鴻上まつよ

学年懇談会では、十種類もの進路例をご提示いただいたことに、まずもって感謝いたします。複数の分科会に参加したい程でした。

私が参加した「理科系」分科会では、群馬大学の先生より、理学部と工学部の研究内容の違いや、文系と理系では就職採用ポイントが異なることなど具体的に伺うことができました。将来、子どもが仕事を通して社会貢献する姿を想像させてくれるようなお話で、大変参考になりました。

二部の学級懇談会では、担任の先生よりクラスの様子を伺った後、保護者の方々と受験について話しました。進路が明確で既に受験モードに入っている子、学部学科が決まっている子、進路を巡って親子で考えが異なる家庭など様々でしたが、有意義な情報交換ができました。

高卒後の進路選択は人生最初で最大の悩みと言えるでしょう。大いに悩み・考え・試行して自ら舟を漕ぎ出してほしいと思います。親は情報提供と参考意見を言う他やれる事はありませんが、楽しみながら子どもの受験に付き合っていくように思います。親子でじっくり、話す機会を、ありがとうございます。

普通科進学二年 今川 幸子

時代の流れは早く、親の私達も

情報社会に対応しなければなりません。進路選択を子ども任せにしないよう、この学年・学級懇談会が聞かれ、学校の手厚い指導に感謝します。

一部の進路講演会では十会場に分かれ、講師の先生から熱心なお話を聞くことができ、大変ありがたく参考になりました。

二部の学級懇談会では担任の山口先生よりクラスの現況を聞いた後、進路について資料を見ながら詳しい説明をして下さいました。心が通い合う友達と共に切磋琢磨しながら充実した学校生活を送ってほしいと思いました。また、どの保護者の方たちも子どもと向き合う時間を大切に、近くで見守る姿に共感しました。

これからも商大附高生としての志を高く持ち、クラス活動や部活動、そして将来の希望に向かって気持ちを奮い立たせ精一杯頑張ってくださいと願っています。

普通科国際文化コース二年 笠原 美穂

高校生活も二年目となり、勉強・部活にと充実した毎日を送っている様です。そろそろ進路について考えていく時期になり、今回の学

年・学級懇談会はとても有意義な時間となりました。

前半の十会場に分かれての「進路講演会」では各大学・学校の特徴や方針等をとても分かり易く説明をして頂けたので親としても、子どもと進路を決める上での参考になりました。

後半の学級懇談会では担任の登坂先生よりクラスの現況や検定取得状況等を話して頂きました。なかでも修学旅行について国文では海外へ行く為事前準備等の説明が聞けたので良かったです。

この様な機会を与えて頂き、学校にはとても感謝しております。今後共先生方の変わらぬご指導をよろしくお願い致します。

普通科特進一年 松下 リサ

みぞれ混じりの寒い寒い入学式からおよそ三ヶ月。六月二十八日、一学年の学年・学級懇談会が行われました。

第一部では、生活・進路指導、海外研修の話が聞きました。資料だけでなく詳しく説明していただいたことで、内容をより理解することができ、今後子どもとの話し合いに生かしていきたいと思いました。

第二部では、担任の先生から主に二年次からの文理選択の話が聞きました。どの保護者も真剣に耳を傾けていました。その後、いくつかのグループに分かれて意見交換をしました。まだ選択を決めかねていることや、携帯使用のルール、部活動の話題等々。

限られた時間でしたが、それぞれの家庭の様子を知ることができ、有意義な話し合いができたと思います。ありがとうございます。

普通科進学一年 高橋 浩美

晴れて高校生となった我が子は部活動・勉強ともに充実した毎日を送っています。そうした中、六月二十八日に第一学年の父母の会が行われました。

第一部の学年全体会では、生徒指導や進学指導、海外研修についてお話があり、興味深い内容でも参考になりました。子どもから進路について相談された時に良いアドバイスが出来る様にしたいと思いました。

第二部は「充実した高校生活を送るために」をテーマに学級懇談会が行われました。各方面から様々な子ども達が通っている高校生活

ですから、どの様な中、過ごしているのか気になっていましたが、担任の倉林先生からのお話でクラスの活気が明るい雰囲気などが伺い知る事が出来ました。また文理選択などの進路説明も詳しく聞け、親は親としての進路への意識の在り方など改めて考える事が出来ました。

大変有意義な時間を保護者の皆さんや先生方と共有出来た事に感謝致します。先生方には変わらぬ熱意あるご指導を宜しくお願い致します。

総合ビジネス科一年 角田みどり

一学年の学年・学級懇談会が六月二十六日に行われ、初めての高校生の子を持つ私は、少し緊張しながら参加しました。

第一部の学年懇談会では、高い出席率に驚き、生活指導、進路指導の貴重な話に身が引き締まりました。

第二部の学級懇談会では、まず担任の先生からクラスの状況や進路について詳しい話を聴くことができ大変参考になりました。今から日々親子の対話が重要で、進路について意識した生活を送ろうと感じました。

その後、グループでフリーミーティングをしました。普段の子どもの達の様子や生活、勉強や携帯電話の使用について等、様々な情報交換をすることができ、大変有意義でした。このフリーミーティングでのコメントを先生が子ども達にフォローして下さったので、我が家では子どもとの会話のきっかけにもなっています。

このような機会や情報を保護者が共有することで、皆の意識が高まり、子ども達の高校生活がより良いものとなることを願っています。ありがとうございました。

父母の会総会報告

平成二十七年度高崎商科大学附属高等学校「父母の会・部活動後援会総会」が、五月二十三日(土)午後二時から開催されました。高見澤副会長の司会進行、飯塚書記による開会宣言で総会が始まり、吉原会長、森本学校長より挨拶、近況報告がありました。続いて議事に入り、事務局より平成二十六年度事業報告、決算報告並びに、監事より監査報告が行われ、慎重

父母の会本部役員(部活動後援会本部役員)

会 長	中村純也 (F3-10)	理 事	大山かおる (S3-3)
副会長	山木恵子 (F3-9)		鴻上まつよ (F2-2)
	松澤龍治 (F2-8)		小野順市 (F2-4)
	桂川淳 (F1-9)		原田久美子 (F2-5)
書 記	佐藤英司 (S3-1)		根本さおり (F2-6)
	茂木幸恵 (F2-3)		平山典子 (F2-7)
	登坂 駿		境野友理子 (F2-9)
会 計	猿谷正広 (F3-7)		森澤 栄 (F2-11)
	笠原美穂 (F2-12)		小林光子 (S2-1)
	岩井則和		中島美佳子 (S2-2)
理 事	坂井洋子 (F3-1)	監 事	平塚貴恵子 (F3-5)
	磯部裕子 (F3-2)		金井悦代 (F3-2)
	榎本恭子 (F3-3)		横尾麻子 (F2-1)
	高橋智子 (F3-4)		今川幸子 (F2-10)
	井草みどり (F3-6)		海老沼久之 (S1-2)
	佐藤厚子 (S3-2)		石綿綾子 (F1-1)
	米谷悦子 (F3-8)		蛸山香代 (F1-5)
	山口和美 (F3-10)		高橋浩美 (F1-10)
	戸塚育美 (F3-11)		小島美智子 (F1-3)

審議のもと承認されました。次に本部役員の改選が行われ、平成二十七年度高崎商科大学附属高等学校「父母の会」に中村純也氏が選出されました。同時に副会長三名以下総勢三十八名の役員が選出、承認され、新体制がスタートしました。中村新会長挨拶の後、平成二十七年度高崎商科大学附属高等学校「父母の会」が提出され慎重審議の結果、原案通り承認されました。

最後に、本会にご尽力頂いた吉原前会長、退任された役員の方々に、学校長より感謝状と記念品が贈呈され、担任者挨拶の後、会員の皆様のご協力をもちまして総会が無事に終了することが出来ました。新年度本部役員は別記の通りです。宜しくお願い致します。

(書記 佐藤英司)

父母の会 平成26年度決算報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

収入の部				
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
会 費	16,188,000	16,379,000	△191,000	@1,000×16,379人(月平均 約1,365人)
入 会 金	2,375,000	2,375,000	0	@5,000×475人(新入生475人)
受 取 利 息	5,000	4,220	780	定期預金・普通預金
衛 生 費 収 入	1,372,000	1,372,000	0	@1,000×1,372人
前 年 度 繰 越 金	4,906,447	4,906,447	0	普通預金 4,010,525円 現金 895,922円
合 計	24,846,447	25,036,667	△190,220	
支出の部				
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
備 品 費	800,000	501,336	298,664	第7校舎冷水器取付
会 議 費	1,300,000	1,275,231	24,769	役員会・学年・学級懇談会経費
慶 弔 費	300,000	271,040	28,960	香典・花輪・饗別
補 導 費	100,000	44,978	55,022	情報交換会・校外の生活指導費等
環 境 整 美 費	2,500,000	2,060,921	439,079	新校舎掃除用具入れ・掃除用品・ゴミ処理・他
保 健 衛 生 費	1,500,000	1,448,701	51,299	汚物処理・保健室薬品代等
旅 費 交 通 費	150,000	97,640	52,360	役員研修交通費等
部 活 動 賛 助 費	3,000,000	3,000,000	0	部活動後援会の補助
通 信 費	600,000	443,768	156,232	メールによる生徒連絡網システム年間管理料、他
消 耗 品 費	30,000	4,186	25,814	コピー用紙等
進 路 対 策 費	1,700,000	1,396,762	303,238	進路資料・2015年度版大学入試シリーズ・講演会
生 徒 会 事 業 協 力 費	1,800,000	1,086,192	713,808	芸術鑑賞(群響)・予餞会・附高祭協力金
卒 業 生 記 念 品 費	250,000	213,948	36,052	卒業祝紅白餅
教 育 研 修 費	750,000	594,345	155,655	教職員研修補助
印 刷 費	800,000	635,040	164,960	商大附高だより・学年学級懇談会結果報告書
車 輛 運 営 費	1,800,000	1,817,980	△17,980	車輛燃料代・車輛リース代
諸 会 費	2,500,000	2,387,008	112,992	PTA連合会費・スポーツ振興センター負担金・他
雑 費	200,000	132,516	67,484	大会パンフレット協賛広告料等
車 輛 償 却 引 当 預 金	1,000,000	1,000,000	0	特別繰越金
創 立 110 周 年 記 念 事 業 費	2,000,000	2,000,000	0	特別繰越金
育 英 基 金 協 力 金	1,000,000	1,000,000	0	学園育英基金
[予 備 費]	100,000	0	100,000	
次 年 度 繰 越 金	666,447	3,625,075	△2,958,628	普通預金 3,029,545円 現金 595,530円
合 計	24,846,447	25,036,667	△190,220	

※ 車輛運営費の予算超過額については、他科目予算残高で科目間流用いたしました。

※特別繰越金

科 目	金 額	科 目	金 額
車 輛 償 却 引 当 預 金	3,600,000	創 立 110 周 年 記 念 事 業 積 立 金	13,000,000
前 期 末 積 立 累 計 額	1,000,000	前 期 積 立 累 計 額	2,000,000
当 期 積 立 額	4,600,000	当 期 積 立 額	15,000,000
合 計 (当 期 末 積 立 累 計 額)	4,600,000	合 計 (当 期 末 積 立 累 計 額)	15,000,000

上記の通り決算報告致します。

高崎商科大学附属高等学校 父母の会 会長
 " 父母の会 会計
 " 事務局

部活動後援会 平成26年度決算報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
会費	24,282,000	24,568,500	△286,500	@1,500×16,379人(月平均 約1,365人)
入会金	2,375,000	2,375,000	0	@5,000×475名(新入生475人)
賛助費	3,300,000	3,300,000	0	父母の会 300万円 同窓会 30万円
寄附金収入	800,000	710,026	89,974	自動販売機売上手数料
受取利息	5,000	2,951	2,049	定期預金・普通預金
前年度繰越預り金	4,797,097	4,798,071	△974	春高バレー預り預金・受取利息
前年度繰越金	4,296,256	4,296,256	0	普通預金 4,040,117円 現金 256,139円
合計	39,855,353	40,050,804	△195,451	
支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
大会費	17,500,000	12,732,401	4,767,599	全国(インターハイ南関東) 関東、県大会等
報償費	4,300,000	4,118,960	181,040	講師、コーチ等の謝礼
合宿費	1,500,000	1,247,240	252,760	強化合宿・校内合宿補助
備品費	1,800,000	1,605,570	194,430	ユニフォーム・野球部ヘルメット等・卓球部コーチマシン、他
強化費	2,500,000	2,674,548	△174,548	強化大会等経費・講習会・施設利用料
渉外費	300,000	120,767	179,233	大会パンフレット協賛金、他
車輜運営費	1,700,000	1,317,808	382,192	車輜燃料代、マイククロリース料
車輜償却引当預金	2,000,000	2,000,000	0	特別繰越金
部活動振興基金	3,000,000	3,000,000	0	特別繰越金
雑費	30,000	0	30,000	
[予備費]	100,000	0	100,000	
預り金次年度繰越金	4,797,097	4,798,071	△974	春高バレー預り預金 4,798,071円
次年度繰越金	328,256	6,435,439	△6,107,183	普通預金 5,008,491円 現金 1,426,948円
合計	39,855,353	40,050,804	△195,451	

※強化費の予算超過額については、他科目予算残高で科目間流用いたしました。

※寄附金収入について 校内に設置してあります自動販売機は購買部で管理していますが、売上手数料につきましては部活動後援会に寄附をして頂いております。

※特別繰越金

科目	金額	科目	金額
部活動振興基金	9,500,000	車輜償却引当預金	2,000,000
前期末積立累計額	9,500,000	前期末積立累計額	2,000,000
当期積立額	3,000,000	当期積立額	2,000,000
合計(当期末積立累計額)	12,500,000	合計(当期末積立累計額)	4,000,000

上記の通り決算報告致します。

高崎商科大学附属高等学校 部活動後援会 会長
 " 部活動後援会 会計
 " 事務局

一年生父母が語る

我が子に
 望む
 高校生活

普通科特選 石綿綾子

小学校の頃から、将来やりたい
 と思っている事があり、その気持ち
 ちは、今でも変わらないようです。
 息子は、高校を卒業して専門学
 校を考えていたのですが、少人数
 編成で、進路達成に向け、きめ細
 かく指導をしてくださると知り、
 このクラスでお世話になることを
 決めました。高校受験の時も、他
 人事の様に、のんびりしてしまし
 たが、高校へ入学し、朝学習やZ
 会、勉強合宿など、今までとは違
 い、勉強時間が増えました。
 与えられた事をこなすだけの現
 状ですが、家庭学習を増やし、苦
 手科目の克服、資格取得にチャレ
 ンジするなど、もつと欲を出して
 くれると良いなと思います。
 マイペースだからこそ、先を見据
 えて、何をすれば良いか自分で考え
 取り組んでいってほしいと思います。
 コミュニケーション能力をつけると

か、体力をつけるとか望む事は、ありませんが、苦手でも、少しずつ対応していけるように努力し、卒業する頃には、成長したなと思わせてくれたら嬉しいです。子どもの気持ちを尊重しながら、見守っていききたいと思います。

普通科特進 中島康代

「学校はどう？」と聞くと、「楽しい。」との返事、まずは何よりです。高校生活でも、先生や友達との出合いを大切にしてほしいです。部活動や友達との様々な体験を通して、成長して行って下さい。

高校生活は、「自立」への階段を登っていく過程だと思います。例えば、進路を決める時、いろいろな悩みながらも自分で考えて決めることです。自分で決めた事には責任が伴います。先生や親などからアドバイスを聞いてみて下さい。また、世の中の出来事にも関心を持つてほしいです。今、日本で世界で、何が起きているのかなどです。自分で情報を得て、自分で考え、自分で判断できるようになってほしいです。

充実した高校生活を過ごせるように、エールを送りたいと思います。

そして、私たち親は、子どもの成長を温かく見守りながら、「分離」の階段を登っていくのだと思います。親子も「出会い」の始まりなのでしょう。

普通科進学 蠟山香代

入学おめでとう。ひとまずホッとしたことでしょう。

義務教育を終え、自分で選択し本校に入学してきたわけですが、人生には幾度となく岐路があります。これからの人生、自分で決断し進んでいくのです。毎回それが正解なら結構。人生の節目節目で振り返った時、「自分はこの道を選んで間違いはなかった」と思える人生を送ってほしい。しかし、そうとばかりはいかないでしょう。親の庇護のもとと生活している今、大人になっても、一生経験・勉強ですが、若さの特権はたくさん失敗できること。そこからいろんな事を学び、自分で転んだら起き上がる方法を身につけてください。でも、自分ではどうしようもない時、親・友達・先生、周りの人に助けてもらう事も忘れないでください。親はいつも、見守っていますよ。

自分の夢を持ち叶えてほしい。幸せになってほしい。自分のやりたいことを見つけてください。やりたいことが見つからなかったら、今、自分のやれること。やるべきことを頑張ってみてください。自分を好きになること。好きな自分に近づけることに、頑張ってみてください。

高校三年間は、あつという間です。

普通科国際文化 井川花子

将来どんな職業に就くかを考えながら過ごしてもらいたいです。

我々親世代の就職活動した時期に比べて、今の環境は激変しています。優良企業に正社員として就職すれば定年まで安泰であるわけもなく、いつでもリストラや倒産の危険があります。手に職をつけても安定期が約束されるわけではありません。少子化の問題も深刻です。これが劇的に改善されない限り、日本の国内消費が伸びないのは明らかです。今後、市場としての日本に大きな成長は見込めません。高齢者向けの市場の他は原則として縮小していくでしょう。市場の縮小は求人減少と同義です。

しかし将来を悲観することはありません。今はインターネットというインフラがあります。親世代との大きな違いです。ブログやSNSで個人が大企業に負けない広告をうつこともできるし、資金の調達もできます。ただ、どんなに素晴らしいモノやサービスを提供できると自分が思っている、需要がなくては成り立ちません。ここに需要があるのか、頭の片隅に置いておいて欲しいです。

総合・ジネス科 海老沼久之

自らの高校生活を振り返ってみますと、無我夢中で充実してはいましたが、学習の大切さやルールを守る事の意味など、深く考えてはいませんでした。物事を瞬間や断片だけで捉えるのではなく、全体像や長い時間軸で物事を判断する事の大切さを今、まさに自分自身が学んでいる所です。

我が子には今の環境の中で子ども達なりに悩み、身の処し方を探していると思いますが、先生方を始め、先輩方など、先人の言葉や思いに耳を傾ける事の大切さに気づいてほしいと思います。

高校生活では大好きな部活動に

力を注ぐ事は勿論ですが、学ぶ事の楽しさや、必要性など、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そして将来、社会で役に立っている存在になれるよう、課題や難題に向い、「我が身に起きる出来事は全て意味がある」と前向きに受け止め、諦めずに向かってほしいです。それらの高校生活でしか出来ない貴重な体験こそが、これからの人生での糧と自信につながると思っています。



特別進学選抜・特別進学コース

主任 大澤 香代子

高校三年間が充実したものとなるかどうかを左右する大きな要因のひとつに、友人との出会いがあります。特に一年生にとっては、幼い

頃から親しんだ友達の輪を一步踏み出し、新たな人の輪に加わることは、楽しみでもあり、不安の種でもあります。はじめから積極的に話しかけて友達を作れる生徒もいれば、人見知りで口数が少なくうつむき気味の生徒もいます。クラス担任は、生徒達がお互いの性格や特性を理解し、気の合う仲間を見つけられるよう、大いに心をくだいていきます。子どもでもなく大人にもなりきれず、不安定で悩み多きこの時期の気持ちを、最も敏感に察知し理解できるのは、同じ年代の友人に他ならないからです。

また、自分の意欲や可能性を引き出してくれるのも、良き友人でありライバルの存在です。三年生にとつて、この夏休み中にどれだけ勉強できるかが合格を決める大きなカギとなります。特選・特進コースでは、毎年夏休みの最初に「合宿講座」を実施し、勉強漬けの三泊四日を過ごします。一・二年生は必修ですが、三年生は、外部の夏期講習や塾へ通う生徒もいることから、希望者のみの参加となっておりますが、今年は何年になく多い、在籍の約半数にあたる七十六名が参加しました。また、そ

の後も学校の学習室や進路資料室は、勉強する生徒でほぼ満席の状態が続きました。暑い中、学校へ来て勉強する理由を尋ねると、「友達が頑張っているのを見ると、自分も負けていられないから。」「分からないところを、質問したり、教え合えるから。」という答が返ってきました。

今年十一月、初の試みとして、浜川陸上競技場で体育祭を行います。クラス対抗で、走ったり跳んだり応援したりしながら、助け合い、笑い、悔しい思いを分かち合い、友達の絆を強める良い機会となつてもらえればと思っています。

一学年進学コース主任

高橋 久雄

夏季休業も終わり一年生が本校に入学して半年が経とうとしています。一学期はまず高校生活に慣れることに重点が置かれていました。また、友だち作りや文理選択で悩んだり迷ったりした人もたくさんいたことと思います。二学期からは授業の内容もさらに高度になります。高校生活とはどうあるべきかを考え、残りの高校生活を送って欲しいと思います。

なぜ学校に通っているのか？自立して生きていく力を身に付けて行くためだと思います。君たちは自分を養ってくれている人からいつか独立して、自分の力で生きて行かなければなりません。自立は自分の力で誰にも迷惑をかけず、自由に生きる力を与え、君たちの明るい未来もつなげていきます。

それを得るために高校での学習は決して疎かにしてはいけません。授業アンケートの結果をみると家庭学習をまったくしていない生徒がいるのは信じられないことです。勉強の計画を立てて予習復習を必ず実行し、授業は自分のために行われるものという心構えで自主的に授業に真剣に取り組みましょう。

また、新しい仲間と協力し、競い、支えながら部活動にも精一杯励んで欲しいと思います。高校での三年間はあつという間に過ぎていくので、目標を見つけ、失敗を恐れずに自分の可能性を信じて頑張ってください。疑問や悩みがあれば、遠慮せずに先生、先輩に相談してください。

高校生になった皆さんには自ら動く能動的な人になってもらいたいと思います。本校は伝統ある素

晴らしい学校ですが、受け身な姿勢では得られるものは数少ないと思います。自ら動けば、可能性は幾重にも広がります。勉強面においても部活動においても自分自身で何かを掴み取るという貪欲な気持ちで三年間頑張つて欲しいと思います。皆さんはそれぞれ素晴らしい可能性を秘めた能力を持っています。大きな夢を持ち、その夢に向けて突き進んでください。

二学年進学コース主任

水上 浩

四月七日の始業式から一学期の終業式まであっという間に、七月九日が終わりました。高校二年生になった子どもたちには何か変化があったでしょうか。私から見ると、少し大人になったように思います。顔つき、体つきもそうです。朝のSHRでの落ち着いた様子、普段の授業の様子を見てもわかります。進学コースは文武両道を目標としています。勉強を頑張っている生徒、部活動を頑張っている生徒はたくさんいます。その中で特に、フェンシング部に所属している遠藤里菜さんは、関東大会で個人第二位に入賞しました。文

化部も放送部、囲碁部がこの夏、全国大会に出場しています。本校は、生徒たちの自主、自立を大切に考えています。ここで一つの例を紹介したいと思います。私は放送部の顧問をしています。新設された放送スタジオの運営も任されています。六月、何度か生中継でスタジオからの表彰式がありました。その中で一度、ある教室でテレビモニターが故障しているという連絡が入り、点検のため私が放送室を留守にすると、放送時間の間関係もあるので、生徒たちだけで映像スイッチャーを操作し、テレビカメラも回し、キューサインを出し、見事本番を乗り切ってくれました。これには驚きました。今までは教員の指示指導の下で本番が行われていたものです。この件では他の先生方からも褒めの言葉をいただきました。最近、一部の若者の傾向として何かを指示してあげないという傾向があり、何もしないという傾向がありますが、この放送部の実例を見てみると、まさに自主自立が育まれてきているという一面を見ることが出来ました。もう一つ感じた事があります。表彰式は、生放送なので、出

演者や技術スタッフとのコミュニケーションがうまく取れないと本番で失敗してしまいますが、見事成功しました。このことは放送部だけではありません。いろいろな部活動を通じてコミュニケーション能力を育んでいただきたいと思います。部活に入っていない生徒たちは、積極的に勇気を持って誰とでも話をする練習をしてみることも大切だと思います。これは将来の就職活動において、大きく役立つことだと思いますので、是非、実践してみてください。

三年進学コース主任

菊池 弘幸

ふと気がつけば卒業がもうすぐそこに見えてきてしまいそうな時季となりました。まだ少し余裕があると思っていた生徒たちにも焦りの色が見られるようにもなりました。受験生にとってこの夏が勝負であるのは当然の事ですが、その夏も終ってしまいました。さてどうしようかと悩んでいるご家庭も多いのではないかと思います。しかし悩んだところでどうにもならないのも現実である以上、ここは一つ腹をくくって残された時間に

全力を注ぎ込むしかありません。今年の夏も日本の各所で様々な事がありました。水の事故で失われた多くの尊い命、9・11以来何かと議論され、街頭でも連呼された安全保障の問題、教育格差の問題、終戦七十年そして日航ジャンボ機墜落から三十年など次から次へと出てくる問題や話題で持ち切りでした。

そんな中、あるテレビ番組で下平作江さんの姿をお見かけしました。下平さんといえば九州の修学旅行で被爆体験を話してくださいました方ですので生徒の皆さんも覚えていると思います。当日は原爆資料館まで来ていただいて貴重な体験を聞く事ができたわけです。下平さんが被爆されたのが十歳の時とのことでしたので今年で八十歳になられたのでしょうか。以前から体調はあまり良くはなく、入院と手術を繰り返しているとの話を伺ったこともありましたが、テレビ画面に映った下平さんは相変わらず原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを静かにも力強く訴えかけておられました。人間の弱さ、儂さを思ったと同時に覚悟を決めた人間の強さのようなものを改めて

感じさせられました。

世の中景気が回復基調になり、就職にも明るさが見えてきたとはいえ、そう樂觀できない状況もある今、次の進路を模索している高校生が全国には沢山います。ここは皆さんも覚悟を決めて、将来の日本を背負って立つべく残された時間を精一杯に過ごしてもらいたいと思います。

国際文化コース主任

鈴木啓明

昔は、現在ほど進学に対する選択肢は無く、「偏差値の高い大学へ行けば間違いない、その後の人生に安定をもたらしてくれる」という価値観の下、社会が成立していました。しかし、現在はそうではありません。少なくとも変わりつつあるのです。大学選びも、その先にある働き方や生き方も、同様に多様化しつつあります。そして、その多様性の中に留学も入ります。

日々国際化が進む現在、外国や外国語は非常に身近な存在となりつつありますが、本当の意味で英語を操っている人は、なかなかいないようです。一昔前なら、中級程度の英語力でも通用していたかもし

れませんが、現在はそれが武器になる時代ではなくなりました。そのネイティブ並みの英語力を身に付けることが出来るのが、高校留学の強みです。大学留学では、すでに言語の基礎も出来上がっており、ネイティブ並みの英語力を身に付けるには、かなりの時間を要します。頭の柔らかい高校留学は留学時期としては最適で、短期間の間に飛躍的に英語力を向上させることが出来る環境が整っているのです。

もう一つ、重要な能力があります。コミュニケーション能力です。最近の学生たちに最も欠落している能力(学生だけでなく社会人も欠落している人が増えているそうです)です。周囲に日本人がいない環境で、言語・文化・習慣等も異なる地で生活して行くためには、自ら積極的にコミュニケーションをとらなくてはなりません。さらに、海外の高校は、日本と異なり、様々な人種の学生が通っています。特に移民の多いアメリカやカナダなどではクラスの数十%を移民の学生が占めることも珍しくはないそうです。国際色豊かな環境で、異文化交流を日常の生活の中で行うことが出来、異文化

を肌で感じ、無理なく吸収することが出来るのです。

そして、最後は卒業後の進路選択です。一つは、語学力を身に付け、様々な経験を積んだ上での日本の大学への進学です。大学での学びが充実したものになることは請け合いです。そして、もう一つの選択です。本校を卒業の後、海外の大学へ進学する生徒が出てきたのです。自分の高校・大学の時代にはなかなか考えられなかったことで、驚きと頼もしさを感じています。ぜひ卒業生には大きく羽ばたいてほしいと思っています。

総合ビジネス科主任

善如寺孝益

学年及び科・コースの運営では日頃よりご協力をいただき大変有り難く感謝申し上げます。

さて、求人票で見る条件の一つに「コミュニケーションができる人」という文言があります。最近では「ネットワークコミュニケーション」なる新語がよく使われています。本来コミュニケーションとは、「互いの意思を伝え合う」ことなのに、直接相対さないネットワーク上でその意思を伝えるこ

とができるのか、甚だ疑問です。そこで「コミュニケーション」について情報科という立場から話をしたいと思います。

そもそもコミュニケーションとは何でしょう・・・生徒達に尋ねたところ「言葉の掛け合い」、「会話をすること」、「言葉で話をする」など・・・「言葉」がキーワードになりました。では、日本語が通じない外国の方や、まだ言葉が分からない乳幼児とはコミュニケーションが取れないのでしょうか・・・決してそんなことはありません。

言葉が使えなくても表情や雰囲気、いわゆるボディランゲージ(非言語という)などを使って相手に意思を伝えることはできます。サッカー選手のアイコンタクトもそれに当たります。実は、これがコミュニケーションの本来の目的であり原点なのです。「言葉」とは意思や気持ちを伝えるための単なるツールでしか過ぎないのです。

アメリカの学者メラビアンは、意思伝達にはこの非言語によるコミュニケーションの役割が大切で、人間は自然と「五感」を使ってコミュニケーションをしているとされます。確かにそうです、「顔に書いてある」

「眼が笑っていない」、「眼は口ほどにものを言う」などがそうです。メラビアンによると、意思伝達の割合は言葉を使ったコミュニケーションが三〇%足らずに対し、非言語を使った意思伝達は七〇%を超え、と言われるほどです。言い換えると、伝えたいことは言葉だけでなく、表情、細かいニュアンスや雰囲気によって、細かいニュアンスや雰囲気に表れるということになります。また、そこに本意が隠されているケースが多々あるということです。例えば、言葉で嘘を言っても、表情や眼、雰囲気でもバレてしまうのもそうです。スマホは所詮情報端末機器です。マニュアルに、「この機械で意思が伝えられます。」と書いてあるでしょうか・・・データの送受信は瞬時にできて、それだけ・・・相手の表情や雰囲気は伝えられないのです。本校は通信制の学校ではありません。クラスや部活で仲間や先生方と「会話」を存分に楽しんで欲しいのです。時には言い合いをすることもあるでしょう。でもそれでいいのです。そうすれば必ずや社会が求めている「コミュニケーション」ができる人々になれると思うのです。前向きにがんばりましょう。応援しています。

全学年対象「学校評価アンケート」分析結果について (保護者・生徒共に1351名)

平成26年度末におけるアンケート結果が出ましたので、ご報告させていただきます。傾向としては、本校の各科・コースの教育内容を理解し、学習や課外活動に積極的に参加し、本校の教育活動に満足している生徒が約8割です。総合学習、課題研究にも多くの生徒が積極的に取り組んでいます。生活面、健康面でも概ね良好の印象を受けます。しかし、家庭学習時間が1時間以上の生徒は41%であり、改善が必要です。夢を実現するための具体的な取組みを決め、一つ一つそれらをクリアして、さらに次のステップへ進んでもらいたいものです。

- 評価内容**
- 4 … よく当てはまる
 - 3 … 当てはまる
 - 2 … あまり当てはまらない
 - 1 … 全く当てはまらない
 - 0 … 分からない
- 達成度**
- A … 十分達成できた
 - B … 達成できた
 - C … もう少しで達成できた
 - D … 達成できなかった

● 生徒全体

No.	質 問	平均	4	3	2	1	0	達成度
1	自分は本校の各科・コースの教育内容を理解し、学習や課外活動に積極的に参加し、本校の教育活動に満足している。	3.7	21%	57%	16%	2%	5%	A
2	自分は「総合学習」「課題研究」に積極的に取り組んでいる。	3.7	25%	51%	19%	2%	3%	A
3	自分は学習に対して満足感、達成感を持っている。	3.4	15%	53%	25%	2%	5%	B
4	自分は意欲的に学習に取り組んでいる。	3.7	21%	53%	23%	2%	2%	A
5	自分は家庭学習時間が、毎日1時間以上である。	2.7	16%	25%	36%	21%	2%	C
6	自分は高校生らしい服装、頭髪、言葉遣いをしている。	4.2	44%	45%	8%	1%	3%	A
7	自分は登下校時や授業の開始、終了時に積極的に挨拶をしている。	3.9	33%	46%	18%	2%	2%	A
8	自分は、毎朝朝食をとり、生活のリズムが一定している。	4.1	48%	34%	14%	3%	1%	A
9	自分は進路指導の行事に積極的に参加している。	3.3	20%	41%	28%	5%	6%	B
10	保護者は、生徒の将来の進路志望について理解している。	3.6	32%	41%	15%	3%	9%	B
11	自分は進路の適性をよく理解している。	3.2	20%	43%	22%	3%	13%	B

● 保護者全体

No.	質 問	平均	4	3	2	1	0	達成度
12	子どもは本校の各科・コースの教育内容を理解し、学習や課外活動に積極的に参加し、本校の教育活動に満足している。	3.8	24%	59%	13%	1%	4%	A
13	子どもは「総合学習」「課題研究」に積極的に取り組んでいる。	3.6	22%	52%	18%	2%	6%	B
14	子どもは学習に対して満足感、達成感を持っている。	3.4	16%	52%	24%	2%	7%	B
15	子どもは意欲的に学習に取り組んでいる。	3.5	20%	50%	24%	2%	4%	B
16	子どもは家庭学習時間が、毎日1時間以上である。	2.8	17%	27%	37%	16%	4%	C
17	子どもは高校生らしい服装、頭髪、言葉遣いをしている。	4.2	45%	45%	8%	1%	1%	A
18	子どもは登下校時や授業の開始、終了時に積極的に挨拶をしている。	4.0	36%	45%	17%	2%	1%	A
19	子どもは、毎朝朝食をとり、生活のリズムが一定している。	4.1	49%	35%	12%	3%	1%	A
20	子どもは進路指導の行事に積極的に参加している。	3.3	21%	43%	24%	3%	10%	B
21	子どもの将来の進路志望について自分は理解している。	3.7	27%	49%	18%	2%	5%	A
22	子どもは進路の適性をよく理解している。	3.4	19%	48%	23%	2%	8%	B



風になれ 今 青春が走り出す 君が創る近畿総体 2015・全国大会結果

クラブ名	期 日	開催場所	成 績
空 手 道 部	7月31日 8月2日	奈良県宇陀市 総合体育館	女子個人形 清水那月 (F3-7) 5位入賞、小峯桃子 (F3-7) 1回戦敗退 女子団体組手 5位入賞 女子個人組手 川村真以 (F3-6) 2回戦敗退、鈴木沙奈 (F3-6) 2回戦敗退 男子個人組手 川崎紘史 (F3-8) 3回戦敗退
フェンシング部	8月6日 8月12日	奈良県櫻井市 芝運動公園 総合体育館	女子学校対抗 ベスト8 女子フルール個人 遠藤里菜 (F2-9) 2位、登坂梨乃 (F3-11) 2回戦敗退 女子エペ個人 登坂梨乃 (F3-11) 2位 女子サーブル個人 大木 彩 (S3-1) 予選敗退 男子フルール個人 江藤和博 (F1-9) 2回戦敗退 男子サーブル個人 倉林洋太 (F2-5) 予選敗退
アーチェリー部	8月6日 8月9日	奈良県立 橿原公苑 陸上競技場	男子団体 27位 女子団体 9位 男子個人 市川遼治 (F2-1) 87位、勅使川原秀倫 (F3-3) 102位 森田伊心 (F3-6) 111位、伊藤亨紀 (F2-6) 169位 女子個人 佐相花奈 (F3-8) 33位、秋場祐里奈 (F2-11) 33位、 今川琴乃 (F2-10) 120位、坂本正恵 (F3-10) 142位
少 林 寺 拳 法	7月31日 8月2日	兵庫県立 武道館	女子単独演武 清水あかり (F2-3) 準決勝進出
ボウリング	7月28日 7月30日	川崎グランド ボウル	第39回全日本高校ボウリング選手権大会出場 加藤愛華 (F2-12)
バト ン 部	7月28日 7月30日	滋賀県大津市 街地、野洲市 総合体育館	第39回全国高等学校総合文化祭 パレード部門、マーチングバンド・バトントワリング部門 文化連盟賞
放 送 部	7月20日 7月22日	東京オリンピッ クセンター	第62回全国NHK杯高校放送コンテスト 準々決勝
	7月30日 8月2日	滋賀芸術文化 会館さくら	第39回全国高等学校総合文化祭 放送コンクール オーディオビクチャー部門・ビデオメッセージ部門 文化連盟賞
囲 碁 部	7月30日 7月31日	滋賀県 長浜ロイヤル ホテル	第39回全国高等学校総合文化祭 囲碁部門 団体戦女子代表 長谷川由美 (F3-6) 3勝3敗 女子個人戦 嶋田あかり (F2-4) 3勝3敗
文 芸 部	8月19日 8月21日	岩手県 盛岡劇場	第10回全国高校生短歌大会 短歌甲子園2015 1次リーグ敗退

編集後記

今年の夏、本校主催のオープンスクールに約一八〇名の中学生、保護者が参加して頂きました。「科・コースの丁寧な説明を聞き、迫力のある部活の紹介やパソコンの体験もありとても有意義な時間でした。きれいなトイレなど施設・設備もとても良いと思いました。入試に合格し入学したいと思います。」という感想もありました。

近年、生徒が中心のオープンスクールになるように運営をしています。全教室に配信できる映像放送を使って、生徒会長の挨拶から始まります。中学生・保護者の案内は、自発的に活動参加を申し出た本校生徒のスクール・ガイド・ボランティア(SGV)が担当しています。「科・コースの紹介で勉強合宿の説明をしました。一回目は緊張して声が小さくなってしまったのですが、二回目以降は慣れて良くなりました。自分自身、少し成長できたと思います。平日だったけどとても充実していてよい経験になりました。」というSGVの感想もありました。

創立者の佐藤夕子先生は「親愛」の実践を校訓の第一項目に掲げられています。感謝し奉仕の実践に努めること。奉仕活動の実践において「礼節」を重視すること。さらに「整美」、心身を美しく整えること。服装、身なりを整えて来客をお迎えすること。SGVの生徒は、校訓を実践することにより成長していました。ところで、心を美しく整えるとはどういうことでしょうか。第一項目「親愛」に戻るのだと思います。感謝し奉仕している人は美しい。感謝し奉仕できる人は幸せになれると夕子先生は教えて下さっております。

最後に、「商大附高だより76号」に寄稿頂きましたご父母の皆様及び先生方には感謝申し上げます。(牧口)

